骨塩定量検査を受けられる方へ

骨塩定量を測定する目的

骨に含まれるミネラル成分（主にカルシウム）を測定する検査です。このミネラル成分が不足してくると骨がもろくなり、骨折しやすくなります。骨密度検査は、骨祖鬆症や骨量減少、代謝性骨疾患などの診断を行い早期発見・早期治療につながります。
継続して測定することで、治療の効果とリスクを判定します。

当院の検査装置

GEメディカル社製のPRODIGY Fuga（DEXA法）を導入しています。
骨塩定量検査の一つであるDEXA法（二重エネルギーX線測定法）は2種類の異なるエネルギーのX線がそれぞれどの程度、骨に吸収するかを測定して骨塩を定量測定する方法です。

腰椎と大腿骨の測定が可能

骨粗鬆症になった時に特に骨折リスクが高い腰椎や大腿骨の付け根などの重要な骨を高い精度で測定することができます。

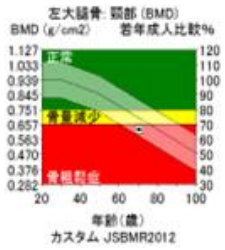
骨折リスクなどを診断

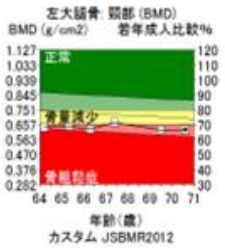
海綿骨構造指標（TBS）で骨量を測定し、骨折リスクなどの診断に役立てます。

検査時間と被ばく線量

検査時間は10分程度、被ばく線量は単純X線撮影の1/10程度です。

わかりやすい検査結果を患者さんに提供





腰椎正面骨密度は 1.017です。	大腿骨骨密度は0.624です。
若い人と比較した値は88 %です。	若い人と比較した値は66 %です。
同年代と比較した値は120 % です。	同年代と比較した値は90 % です。
海綿骨構造指標(TBS) は1.131です。	

判定基準　正　常：若年成人の80%以上　骨量減少：若年成人の70%～80%　骨粗しょう症：若年成人の70%以下

測定年月日	年齢	部位	領域	BMD(骨密度)	同年齢比較	若年成人比較	TBS
2022/08/29	70.6	腰椎正面	L1-L4	1.017 g/cm²	120 %	88 %	1.131
2021/07/08	69.5	腰椎正面	L1-L4	0.989 g/cm²	116 %	86 %	
2019/06/03	67.4	腰椎正面	L1-L4	0.938 g/cm²	108 %	81 %	
2022/08/29	70.6	左大腿骨	頸部	0.624 g/cm²	90 %	66 %	
2021/07/08	69.5	左大腿骨	頸部	0.624 g/cm²	89 %	66 %	
2019/06/03	67.4	左大腿骨	頸部	0.670 g/cm²	93 %	71 %	

過去に当院の装置(DEXA法)で測定した方のデータは継続して表示されます。

検査内容の詳細やご不明な点などございましたら、主治医もしくは担当技師にお問い合わせください。